

## 第7回感想

\*環境情報学府 環境イノベーションマネジメント専攻

D2 女

小野先生は研究テーマを得たきっかけとして、「遠距離恋愛をしていた時、通信費がかかったので、そこからお金のかからない通信に興味を持った」と紹介していて、一気に親近感がわき、そのあとの話も興味深く聞くことができた。センサーネットワーク、可視光通信と聞きなれないけれども私たちの生活に深くかかわる技術の一端を知ることができた。

熊崎先生のご専門は化学物質が引き起こす爆発と安全がテーマで、これもまた自分にはあまりかかわりのないテーマだと思ったが、大変わかりやすく、身近な例を挙げて説明してくださり、安全に関する研究の概要がつかめて興味深かった。

また、熊崎先生のキャリアの積み上げ方も考えさせられた。修士のころの基礎的な研究がベースになり、博士の化学物質の爆発に関する研究、研究所での現場経験から、安全学の必要性や安全を広めるために教育ということを意識するようになったくんだり、ハッとさせられた。

熊崎先生は、「ふらふらと流されて…」というようなことをおっしゃって笑っておられたが、そうではないだろう。確かに、一つのことを積み上げて大家になるというプロセスではない。だが、先生はキャリアのステージが移り変わる時、ご自分の能力や知識、経験と世の中を見渡して、次に進むべき道を見出し、確実にそちらに向かって歩みを進めている。そんな熊崎先生の姿勢は、最近迷走している私にはまぶしくさえ見えた。

また、留学の話、男性ばかりの研究所での体験もとても楽しく納得しながら聞いた。国や人種や性の違いを意識する状況において、それをどのように受け止めるのか、違いを理解してわかり合おうとする態度がとてもバランスよく自然体に思えて、私もかくありたいと思ったのだった。

\*環境情報学府 環境リスクマネジメント専攻

D1 男

○小野文枝先生

「センサネットワーク」と「可視光通信」を題材としたワイヤレス通信に関する講義であった。ワイヤレス通信は、ますます身近になっているが、これからの課題は、「セキュリティの確保」や「高速化から信頼性」だそうだ。

印象に残ったのは、質疑応答の中での、学生からの「将来のワイヤレス時代をどう見るか？」という問いに対する、先生の「より便利になる」との回答であった。ワイヤレス通信が、さながら自動ドアが人間の接近を感知して開くように、「家族の帰宅を自動で伝えたり」するようになる社会が到来するという。

そんな世の中を、一見便利に感ぜられる反面、多少の薄気味悪さを感じるのは、私が文系で技術志向の発想には、常に懐疑的であるからであろうか。職場でのTV会議や、本講義でに双方向遠隔講義等、ワイヤレス時代は否応なく進展しつつあるが、利便性はともかく、文明論としてどうなのだろうか、大いに考えるべき課題を心に刻まれた気がした。

#### ○熊崎美枝子先生

化学安全の技術、特に爆発の研究がご専門とのことであった。

私は、ファイナンスのバックグラウンドから環境政策を研究しているが、安全の定義が受容できないリスクがないことといった観点は大いに共通していると感じた。

一方で、安全とは、規制と強い関連を有していること、未来に対する責任であるといった議論で、（モラルではなく）規制なしには安全が確保できないといった点は、理解はできるものの、多少の違和感がないでもなかったが、こと人命に関わる爆発化学の分野においては、そうしたことも不可欠なのであろう。

ところで、先生は「安全の技術」から「安全学の確立」を目指しておられ、「その人にしか産み出せない価値」を見出せばよいとの研究ポリシーを明かされたが、前者については、産み出された技術は、製品・サービスに応用され、世に普及していくことが不可欠であろうから、近時のはやりではあるが、学問としての確立を願うものである。後者については、こと女性に限らず、男性である私にとっても大きな励ましになった。

\*環境情報学府 環境イノベーション専攻

#### D2 女

熊崎先生のお話を非常に興味深く伺った。我々文系研究者が考える「安全」と、理系の研究者から見た「安全」との隔たりと共通点が見えた気がして、とても面白く感じた。

わたしの専門は心理学であるが、心理学から見た「安全」とは非常に個人的でミクロなものであり、今のところ、危険の予防よりも事後のケアを中心に据えて考えることが主流であるように思う。その意味では「安全」そのものというよりも情緒的な「安全感」や「安心」により近いものと言える（心理学なので当然ではあるが）。そのことから、危険予防としての安全という熊崎先生方のアプローチに新鮮さを感じた。

熊崎先生がおっしゃっていたように、おそらく「安全」とは一般的に仕組みの中に埋め

込まれているものであり、普段は気付かずについて、それが崩れた時にあわてて再構築しようとするものであろう。

翻って自分の分野を見てみると、心理学における「安全」とは再構築ではなく再びの埋め込み作業なのかもしれないと思う。危険に際した時の為の予防的なアプローチとして心理教育なども展開されてはいるが、それはまさに「安全」であることの埋め込みのしかたを教えることであり、危険を回避した後、生きて安全な状態にある自分を確認してもらうための営みである。

また、「危険」や「不安」に対抗するために地域の力を用いようとするコミュニティ心理学なども新たな分野として発展途上にあるが、それもまた、安全感を地域に埋め込もうとしていると言えなくもない。

恐らくどの分野も、「安全」が実はとてももろく永続的なものではないことは分かっているものの、理系と文系とでは、表現型とアプローチの仕方のベクトルが違う。それが非常に面白いと思った。熊崎先生が目標にしていらっしゃる「安全学」の確立には、おそらく理系的な「安全」の理解と文系的な理解が両輪となる必要があるのではなかろうか。

また、危険と安全という概念から広がって、危険が伴う現場における女性の扱われ方のエピソードも独特で、非常に興味深かった。

危険や安全にかかわる概念は、もしかすると日本のジェンダー観の根源的なところなのかも知れず、妊娠・出産という大きな危険を内包する女性と、危険な現場を任される男性という視点からジェンダーを俯瞰してみるのも面白いと思った。

#### \*環境情報学府環境生命学専攻

#### D1 女

女性キャリアパスの講義も最終回となりました。先生方のご研究内容だけでなく、研究対象とするまでの経緯や研究に対する思い、さらには先生ご自身の人生観やお人柄にまで接することができ、有意義な受講となりました。お礼を申し上げます。

今回の講義でも思ったのですが、どんな職業であるにせよ、男女ともに自分がやりたい仕事に就いて続けるには、熱意を持って一生懸命突き進むことで道は開けるということですね。本気でその仕事をやりたければ、そこに「女性だから」という諦めを入れる必要もないということでしょう。

この女性キャリアパスを受講したことで、私は自分の生き方を振り返り、世の中の移り変わりを考える時間を持つことができました。頑張る元気ももらうことができました。世の中は、少しずつですが確実に、女性だから男性だからという先入観から解放され、自分の価値を生み出せる場を選択できるようになってきています。女性が大学院修了後の職業

選択肢として研究職が魅力的な仕事であるためにも、このような講義内容は、どうすれば研究職に就けるか、先人達にはどんな苦労があったか、自分にはできるかということを検討する良い機会になったと思います。来年度もぜひ続けてください。

一年間、有り難うございました。

\*工学府 物理情報工学専攻

M1 女

小野先生ネットワークに関する最新の技術動向を知ることができ、とても面白かった。特に分散したセンサをネットワーク化して膨大なデータを集め、有益な知見を得るセンサネットワークの技術は、今話題となっている集合知とも関連して、これから発展していく可能性を感じ興味深かった。熊崎先生電子情報工学出身の自分とは畑違いの化学の話で、しかも安全学という耳慣れない分野であったが、説明がわかりやすく、私たちの生活における安全学の重要性や、日本ならではの課題を知ることができ面白かった。とくに課題である日本のルール作りの弱さは、携帯電話や近年注目を浴びているスマートグリッドなども含め技術分野全体に言えることであり、意識の向上が必要であると改めて感じた。化学安全は爆発物も扱う危険な分野のため、女性の参入が難しい面もあるが、それをものともせず自分の力で道を切り開いている姿は、分野は違えども今後のキャリアパスの目標にしたいと思う。

\*環境生命学専攻 生命環境コース

M1 女

最後の授業の小野先生、熊崎先生のお話もとても貴重なものでした。特に小野先生は専攻分野である無線通信は携帯電話、パソコン、ゲームといったものに幅広く適用されており、現在の私たちの生活に密着していることだったので普段は分からない通信の仕掛けが色々と分かって非常に聞いていて面白かったです。私たちの暮らしはネットワークの発達によってどんどん便利になっていると感じることが出来ました。少し前までは有線でパソコンからインターネットに接続することが当たり前だったけれど、今では無線でしかも携帯電話や音楽プレーヤーといった機器からもインターネットに接続でき文書やメールなどパソコンで管理していた必要な情報を簡単に得ることができるようになりました。通信の分野はこれから先もっと発達することが期待できる分野であり、将来的には携帯などで連

絡をしなくてもオフィスのドアノブに手を触れただけでその人が帰ろうとしているという情報が送信されるようなネットワークが確立されることを目指したいということを聞いてネットワークの可能性がまだまだ無限にあるということを感じました。

しかし、それと同時に1つの不安も感じました。それはそのようなネットワークが確立されてしまうとその人の動く情報というのが全て誰かに漏れてしまうのではないかということです。単純に「今どこにいるの？」と家族から電話がかかってきた時にどこに居るのかという情報に嘘がつけなくなってしまうのではないかと思ったのです。単純に嘘がつけなくなるということだけなら大した問題ではないと思いますが、ネットワーク社会が確立されればされるほど、ハッキングのような危険性も増えていくと思います。その人がどこに居るのか簡単に分かると例えば総理大臣や大統領といった重要人物の居場所も簡単に分かると、かえって危険性が増すのではないかということも考えました。安全安心した生活のために進化し続けるネットワーク社会ですがそれに伴って危険性もまた進化していくと思うのでより高いセキュリティも確保できるような開発をしていただければいいなと思いました。

1年間を通して様々な分野で活躍している女性の方々のお話を聞きこれから就職活動をしていくにあたって、自分がこれから先、一生誇りを持って取り組んでいける仕事を探したいと思いました。